

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第2号を下記のとおり発表したので送付します。

令和元年度病虫害発生予察特殊報第2号

令 和 元 年 8 月 23 日

岡 山 県

1. 病虫害名 ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda*
2. 発生作物名 飼料用トウモロコシ
3. 特殊報の内容 本県におけるツマジロクサヨトウの発生を初確認
4. 初発生確認月日 令和元年8月19日
5. 発生確認場所 岡山県南部
6. 発生面積 約19ha
7. 発生状況

令和元年8月19日に岡山県南部の飼料用トウモロコシほ場において、一部の葉にヨトウムシ類幼虫の食害痕が確認された。被害株から幼虫を採集し、神戸植物防疫所に同定依頼したところ、令和元年8月22日に本県未発生のツマジロクサヨトウ(*Spodoptera frugiperda*)と判明した。

8. 分布及び生態

- (1) 本種は南北アメリカ原産で、2016年にアフリカ大陸で発生が確認された後、2018年までにアフリカ中南部のほぼ全域に分布が拡大し、2018年にはインド、スリランカ、バングラディッシュ等の南アジア、タイ、ミャンマー、2019年には中国、韓国、台湾でも発生が確認されている。
- (2) 国内では、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認され、その後熊本県、宮崎県、長崎県、大分県、沖縄県、佐賀県、茨城県及び高知県で発生が確認されている。
- (3) 本種は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。
- (4) 寄主植物
アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物。

9. 形態及び被害

- (1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみ前翅中央部に白斑を持つ（図1）。終齢幼虫は体長約40mmで頭部の逆Y字および尾部の斑点が特徴である（図2）。

卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。

- (2) 幼虫が植物の茎、葉、花並びに果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する(図3)。

10. 防除対策及び参考事項

- (1) 多発すると被害が拡大する恐れがあることから、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。
- (2) 県は、当面の間、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国の選定した薬剤(表1~3)を使用しての早期防除や、早期刈取りによるサイレージ処理を実施する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散(ドリフト)に留意する。
- (4) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。

※ 農林水産省によると、本虫は、これまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であると考えられている。



図1 ツマジロクサヨトウ雄成虫(左)と雌成虫(右) ※植物防疫所HPより

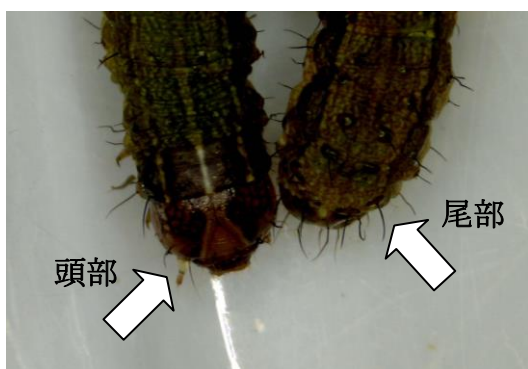


図2 ツマジロクサヨトウ幼虫



図3 飼料用トウモロコシの食害

表1 飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100~300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100~300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100~300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100~300L/10a	2000倍	2回以内

表2 未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 19899, 21694, 21695, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100~300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	—
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60~150L/10a	1000倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
NAC粒剤	散布	雄穂抽末期~雌穂抽末期 但し収穫21日前まで		4~6kg/10a	2回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100~300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100~300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粉する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェナジド水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	1000倍	2回以内
フィロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100~300L/10a	2000倍	2回以内
フェンバレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	4回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	2000~4000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000~4000倍	2回以内
ベルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100~300L/10a	2000倍	4回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	1000~2000倍	3回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	1000倍	3回以内

表3 とうもろこし(子実)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 19899, 21694, 21695, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100~300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	—
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60~150L/10a	1000倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
イソキサチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100~300L/10a	1000倍	2回以内
エトフェンブロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫30日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100~300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100~300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粉する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000倍	3回以内
フェンバレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100~300L/10a	1000~2000倍	4回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	2000~4000倍	2回以内
ベルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100~300L/10a	2000倍	4回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100~300L/10a	1000~2000倍	3回以内

※上記農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29 条第1項の規定による防除を行うために使用する農薬として、使用が可能です。

※上記の作物以外で使用可能な農薬については、農水省 HP (http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-21.pdf) をご参照ください。

※参考文献等

農林水産省ホームページ、植物防疫所ホームページ、侵入を警戒する病害虫に関するファクトシート【病害虫の名称：ツマジロクサヨトウ】より

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

